

「スギ雄花に含まれる放射性セシウムの人への健康への影響」について

平成24年 2月 8日

福島県農林水産部森林計画課

福島県保健福祉部健康増進課

1 林野庁ではスギ雄花とその内部に含まれる放射性セシウムの濃度の調査を実施し、平成 24 年 2 月 8 日に福島県内 132 箇所をはじめ 182 箇所の調査結果を公表しました。[\(リンク\)](#)

2 上記報告によると最も高い放射性セシウム濃度が測定されたのは、福島県浪江町で採取されたもので 1 キログラム(乾燥重量)あたり約 25 万ベクレルでした。[\(リンク\)](#)また、一部のスギの雄花とその内部の花粉に含まれる放射性セシウムの濃度を比較したところ、およそ同程度の濃度という結果でした。

このことから、上記報告の「人体が受ける放射線量の試算」[\(リンク\)](#)において、スギの花粉に含まれる放射性セシウムの濃度を仮に今回の調査で測定したスギの雄花の最高濃度と同一とし、この花粉が大気中に飛散し、これを人が吸入した場合に受ける放射線量を試算しています。

また、この試算の中で、飛散するスギ花粉の大気中の濃度については環境省花粉情報システムによる測定結果の最高値である群馬県林木育種場における月別平均スギ花粉濃度の最高値 2,207 個/m³ が使用されており、福島市方木田における最高値 530 個/m³ の 4.2 倍、いわき市好間における最高値 916 個/m³ の 2.4 倍となっています。

3 上記「人体が受ける放射線量の試算」については、1 時間に吸入する量では、0.000192 μ Sv であり、花粉の飛散期間(2 月～ 5 月)での吸入量全体でも 0.000553 mSv^(注)となりました。

このことについて、林野庁や放射線医学専門家は「影響は小さく心配ないレベル」としています。

注) 林野庁が試算した人体が受ける放射線量は、預託実効線量であり、成人で 50 年間(子どもでは 70 歳になるまで)に体内から受けられる内部被ばく線量を表したものです。

4 なお、放射線の影響から子どもたちやご自身の健康を守るため、日常生活等において気をつけていただきたい内容が、福島県災害対策本部作成のパンフレットに書かれています。

主な内容は次のとおりですので、改めてご確認いただき、適切な行動をお願いいたします。

[小学生用パンフレットから抜粋]

・外で遊んだら、手洗い、うがいをし、顔についた土や砂を洗い落としましょう

- ・服についたほこりや、靴についた土などを落としてから教室や家に入りましょう
- ・お風呂に入ったり、シャワーを浴びるなどして、からだの清潔に心掛けましょう
- ・風が強いときは窓をしめましょう

[保護者用パンフレットから抜粋]

- ・乾燥して風の強い日などは外出を控えましょう
- このような日に外出する際にはマスクをしましょう

- ・未就学児童用 http://www.pref.fukushima.jp/j/01_web.pdf
- ・小学生用 http://www.pref.fukushima.jp/j/02_web.pdf
- ・中学生用 http://www.pref.fukushima.jp/j/03_web.pdf
- ・保護者用 http://www.pref.fukushima.jp/j/04_web.pdf